

電動車拡販や植樹などで地域社会に貢献

アデル・カーズ

アデル・カーズ（池永成正 社長、熊本市南区）は2022年1月より、「SDGs推進室」を設置し、電動車の拡販や地下水保全活動、子どもの貧困支援の活動など地域の持続可能性向上に向けた取り組みを実践してきた。同社は「SDGs宣言」を表明しており、顧客、社会、社員という重要なステークホルダーに対し持続可能な地域社会の実現にむけ全社を挙げて取り組んでいる。中でも、社会に対しては①電動車の販売促進②CO₂排出量の削減③地下水保全活動への取り組み④地域の協賛・寄付・スポーツ振興⑤ボランティア活動参加を実践している。

活動内容としては、22年度より同社発案で熊本市、肥後銀行、地元企業と協力し家庭で使用しなくなった子ども服を回収し、熊本県内の児童養護施設、ウクライナ避難民、一般など1200人以上に配布してきた。今年度は高校生が自発的にプロジェクトに参加するなど、地域の若者からの関心も高まっている。また、23年度からは阿蘇大観の森での植樹活動も始め、地下水保全の取り組みを拡大している。同年1月には、県内の自動車ディーラーとして初のカーボンニュートラル宣言を行い、100%再生可能エネルギーを活用した店舗運営を実現した。



持続可能性向上へ全社を挙げて

同社はサステイナビリティ経営に取り組む企業が増加することが地域価値の創造につながっていくという考えだ。これから取り組みを一層強化するとともに、その影響を県内企業にも広げていくためのリーダーシップを発揮し、持続可能な社会の実現に向けて全力を尽くし続ける。



【受賞者コメント】この度『SDGs 貢献賞』に選出頂き、誠にありがとうございます。弊社は2021年よりSDGs達成に向けた取組みを進めており、『2030年カーボンニュートラル宣言』を皮切りに、フードドライブや衣料品を回収再利用するプロジェクト、地下水保全活動等の地域や業界の特性、課題に応じた独自の取組みを行っており、今後も環境・経済・社会課題に対して積極的にSDGsの取組みを進め、地域課題の解決に貢献していきたいと考えています。